

技術・家庭科 学習の手引き【技術分野】

仙台市立将監東中学校 技術・家庭科

技術・家庭科という教科

技術・家庭科という教科は、大きく分けて技術分野と家庭分野に分けられます。技術科とか、家庭科という教科は中学校にありません。勘違いしないでください。技術分野と家庭分野には、それぞれ別の先生がいます。

ここでは、技術分野について説明します。技術分野は、更に「A 技術とものづくり」と「B 情報とコンピュータ」に分けられます。

☞ 技術分野の教科書P14・15の「もくじ」を見てみましょう。

「もくじ」をよく見ると、**必修**と**選択**と書かれている項目があります。**必修**と書かれている部分は3年の間に絶対に行う内容です。**選択**と書かれている部分は3年の間に、「A 技術とものづくり」と「B 情報とコンピュータ」それぞれ一つずつ行います。何をやるのかは、その年によって異なります。

技術分野での学習のねらい

技術分野は、あなたの次のようなことを身に付けてもらいたい分野です。

- ア あなたの生活を豊かにするための技術を活用できること。
- イ エネルギー資源や食糧資源を大切にできること。
- ウ ものや情報を生活の中で上手に活用できること。
- エ いろいろな人と協力して、豊かな生活を築くこと。

「A 技術とものづくり」の内容

ちょっと昔の教科書では次のように分けられていました。「木材加工」「機械」「金属」「栽培」。なんかイメージがわきましたか。もう少し具体的に、箇条書き書いてみます。

- ア 木材や金属やアクリル等の材料を切ったり、削ったり、組み立てたりして、何か役立つものを製作します。本立て・CDラックなどを製作します。
- イ 電気や熱などのエネルギーを使ったものを製作したり、利用したりします。ダイナモラジオを製作、そしてその利用方法を考えたりします。
- ウ 花や野菜を栽培します。

これらのことを「ものづくり」と言ったりします。「ものづくり」では、次のことも考えなくてはなりません。

- ア エネルギー問題や環境問題、ゴミ問題等も考えます。
- イ 作業の安全について考えます。
- ウ 私たちの生活と技術との関わりについて考えます。
- エ 私たちの生活と食料（糧）生産について考えます。

「なんか、すごくいろいろなことをやるんだなあ」と思った人がいると思います。実はそのとおりなんです。「A 技術とものづくり」を制覇するには、手が器用なだけではなく、国語・数学・社会・理科や保健体育などの知識も必要になるのです。

「B 情報とコンピュータ」の内容

「情報」というものを扱います。「情報」とは何だと思えますか。難しそうですね。「ん～『情報』って、『情報』でしょ。プレステとか」と思う人もいるかもしれませんが。しかし、実体が見えないので、説明するのは難しいかもしれません。授業で勉強していくうちに何となく「こういうものなんだあ」と分かってくると思えます。

さて、この「情報」を集めたり、加工したり、編集したり、発信したりするのが、「B 情報とコンピュータ」の内容の基本です。これからのことをコンピュータを使って行うこともあります。しかし、コンピュータを使わなくても別にいいのです。コンピュータは、あくまでも「情報」を扱うための道具ですから、別な道具を使えばそれでもいいのです。

もちろん、コンピュータは便利です。コンピュータを使って「制御」ということをすることもできます。「制御」とは、コントロールすること。例えば、コンピュータを使って、ロボットを動かしたりすることになるのです。

ちょっとは、分かりましたか。

とくかくやってみよう！

ここまでの話がよく分からなくても、とにかくやってみましょう。やってみないと何でも分からないものです。どの教科もそうだと思いますが、この教科は特にそうだと思います。のこぎりの使い方のうんちくを語っても仕方ないので、のこぎりをとにかく使ってみないことには、うまくできるかは分かりません。ということで、「とにかくやってみよう！」というのが、この教科で大切なことです。

授業の受け方

授業の受け方について、箇条書きで書いてみます。次のことは守ってほしい事柄です。

忘れ物をしない。

人が話している時には、静かにきちんと前を向いて聞く。

活動するときには、活発に。

「安全に」です。

道具・機械類は先生が許可したものを使用する。

許可されていない道具・機械類は危険なものなので、先生に断ってから使用する。

借りた道具・機械類は、正しい使い方をする。

借りた道具・機械類は、借りた人が元の場所に返却する。

落書きなど、器物破損をしない。

自分が出したゴミは、自分で清掃する。

先生の作業開始の合図が出たら、作業を始める準備をし、作業をする。

先生の作業終了の合図が出たら、作業をすぐに終了させ、片付けをする。

提出物をしっかり出す。

あなたたちは何を求められているのか。

ここまで読んでくると、「あなたたちに求めていること」がうすうすイメージとして出来ているのではないかと思います。出来るだけ分かるようにまとめてみます。

授業に一生懸命取り組む。

上手に出来ないのは仕方がない。出来るように努力すればよい。努力することが大切。

分からなかったら、自分で動こう。友だちに聞いたり、先生に聞いたり、教科書などを読んだりすれば、解決策はきっと見つかる。

自分の考えを出そう。人まねをしたり，いい加減な気持ちで取り組んだものでは良い作品は出来ない。ちょっと難しい言葉を使うと，この教科ではオリジナリティー（独創性）というものがとても大切。あなたしか出来ないものを生みだそう。協力し合おう。道具・機械類の使用を譲り合ったり，材料を押さえてあげたり，分からないところを教え合ったりする必要がある教科なのです。自分勝手な行動や，人が「嫌だなあ」と思う行動は止めてください。

安全第一。工事現場の標語じゃないけど，本当にそうなのです。「××君がふざけていたために指が一本なくなっちゃった」ということも起こりうる可能性がある教科なのです。

作業は計画的に！ 授業時数には制限があります。「友だちとおしゃべりしていて，作品や課題が完成しなかったよー」ということがないように。

課題や作品などの提出物を全部出しましょう。

忘れ物をしないこと。

評価は？

技術の評価の観点は次の4つです。これらは，観点別評価といいます。どういう点を具体的に評価しているのかは，表を見てください。

「生活と技術のかかわりについて，関心・意欲・態度をもち，進んで実践している。」ここでは，授業に積極的にかかわっているかどうかを評価します。

「生活について見直し，課題の解決を目指して工夫し，創造することができる。」ここでは，自分の考えをもって行動したり課題に取り組んだり，創造性豊かな作品かどうかを評価します。

「生活に関する基礎的な技術を身に付けている。」

ここでは，技術的な能力を評価します。道具・機械類を安全に正しく使いこなしているかどうかを評価します。

「生活と技術のかかわりや基礎的な事項を理解し，知識を身に付けている。」

ここでは，技術で学ぶことを理解しているかどうかを評価します。ワークシート課題プリントや期末考査などで評価します。

更に，上記の点を総合的にみて，5段階の総合評価を行います。

この，「総合的にみて」ということが大事です。

	具 体 的 な 事 柄
生活と技術のかかわりについて，関心・意欲・態度をもち，進んで実践している。	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物をきちんと出す。 ・掃除や後片付けをしっかり行う。 ・積極的に発言する。 ・課題に計画的・積極的に取り組む。 ・周囲の人と協力して作業したり，教えたりする。
生活について見直し，課題の解決を目指して工夫し，創造することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・課題や作品に，自分の考えを反映させた工夫を加える。 ・教科書やワークブックに書いていることや，授業で習ったことを課題や作品を丁寧に仕上げることができる。
生活に関する基礎的な技術を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で効率的に道具・機械類を正しく使うことができる。 ・道具・機械類を使って，加工作業をすることができる。 ・課題や作品を丁寧に仕上げることができる。
生活と技術のかかわりや基礎的な事項を理解し知識を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークブックや課題プリントで，知識にかかわる部分をしっかりと取り組み提出する。 ・定期考査を頑張る。